

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	
教科書	「高校生の音楽①」小原光一著（教育芸術社）
補助教材等	プリント(補足資料、楽典問題等)
学習上の留意点	
<ul style="list-style-type: none"> ・基本的に1回の授業の前半で理論や鑑賞、後半で実技に取り組む。 ・演奏や鑑賞を楽しむためには相応の集中力が必要なことを踏まえて授業に臨むこと。 (授業態度・忘れ物で減点になることがある。) ・プリントを配布するので、一括してファイル(A4)等に綴じ、毎授業持ってくること。 ・学校スケジュール、教室の空き状況などにより、授業内容が入れ替わることがある。 	
担当教員からのメッセージ	
<p>生涯音楽を愛好する人間性豊かな技術者となることを願い、学校音楽教育最後の本授業は、以下の2点を柱とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実際の演奏や鑑賞に役立つ基礎力を身につけ、音楽的自立を目指す。 ・世界の様々な音楽を通して、互いの違いを認め共感・共生する心と豊かな感性・表現力を身に付ける。 	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	導入 歌唱『宇部高専校歌』	シラバスから学習の意義、年間の授業の進め方、評価方法を理解できる。 発声の基礎を確認し、校歌に親しむことができる。	教科書 p5～ 校歌の歌詞を理解し憶える。
2	西洋の音楽 歌唱『宇部高専校歌』	『モーツァルトの旅』の足跡をたどり、その半生を理解できる。 発声の基礎を確認し、校歌に親しむことができる。	教科書 p144～ プリント資料 教科書 p5～、校歌の歌詞を理解し憶える。
3	西洋の音楽 ギター入門	モーツァルトの楽曲を通して古典派音楽の特徴、オーケストラのしくみを理解できる。 ギター入門の知識を得て、楽器に慣れ親しむことができる。	教科書 p42～、p138～ プリント資料
4	西洋の音楽 ギター演奏	オペラ『トゥーランドット』を鑑賞し、西洋舞台芸術のあらましを理解できる。 タブ譜の読み方を理解できる。	教科書 p36～、p54～ プリント資料
5	西洋の音楽 ギター演奏	オペラ『トゥーランドット』を鑑賞し、西洋舞台芸術のあらましを理解できる。 音階・簡単なメロディの弾き方を理解できる。	教科書 p36～、p54～ プリント資料
6	楽典 ギター演奏	楽典の基礎知識を、確認・発展させることができる。 音階・簡単なメロディを弾くことができる。	教科書 p130～ プリント資料
7	ギターテスト	ギター実技テストとプリント課題により3～6回の内容を確実に身につけることができる。	プリント資料
8	歌唱『アメイジング・グレイス』 ギター演奏	英語の歌唱に慣れ親しむことができる。 タブ譜の読み方を定着させ、アルペジオ奏を理解できる。	プリント資料 教科書 p98～
9	歌唱『アメイジング・グレイス』 ギター演奏	英語の歌唱に慣れ親しむことができる。 メロディ奏を発展させ、アルペジオ奏を習得できる。	プリント資料
10	歌唱『アメイジング・グレイス』 ギター演奏	英語の歌唱に慣れ親しむことができる。 メロディ奏を発展させ、アルペジオ奏を習得できる。コードとストローク奏を理解できる。	プリント資料
11	日本の伝統音楽 ギター演奏	日本の伝統的な舞台芸術、歌舞伎のあらましを理解できる。 メロディ奏を発展させ、アルペジオ奏・ストローク奏を習得し、弾き語りに取り組むことができる。	教科書 p68～ プリント資料
12	日本の伝統音楽 ギター演奏	歌舞伎『京鹿子娘道成寺』を鑑賞し、日本の伝統音楽に親しむことができる。 メロディ奏・アルペジオ奏・ストローク奏・弾き語りができる。	教科書 p68～ プリント資料
13	ギターテスト	ギター実技テストとプリント課題により、8～12回の内容を確実に身につけることができる。	プリント資料
14	世界の諸民族の音楽 楽典	世界の様々な地域の音楽にふれ、その特性を理解できる。 楽典の基礎知識を確認・発展させることができる。	教科書 p74～ プリント資料 期末試験に備える
期末試験			
15	答案返却・解答解説 全体の学習事項のまとめ 授業アンケートの実施	期末試験の解説により、学習内容の理解を深めることができる。 全体のまとめを行う。	
総 授 業 時 間 数			30 時間

科目名		美術 (Fine Art)								
学年	学科(コース)	単位数		必修/選択	授業形態	開講時期	総時間数			
第1学年	制御情報工学科 物質工学科 経営情報学科	履修	1単位	必修	講義	前期	30時間			
担当教員		【非常勤】講師 村上 芳明 (【副担当】教授 岩元 修一)								
学習到達目標										
科目の到達目標レベル		(1)デッサンを通して対象物を観察し、表現する画力を身につける。 (2)色彩学を通して、色の成り立ち、応用を理解する。 (3)プロダクトデザインを通して身の周りの工業製品においてもデザイン性が重要であるということ学ぶ。								
到達目標(評価項目)		優れた到達レベルの目安	良好な到達レベルの目安	最低限の到達レベルの目安	未到達レベルの目安					
到達目標①		対象物の形を正確にとらえ、立体感のあるデッサンを描くことができる。	対象物の形を正確にとらえ、陰影をつけたデッサンを描くことができる。	対象物の形をおおまかにとらえ、陰影をつけたデッサンを描くことができる。	対象物の形をとらえることができず、デッサンに陰影をつけることができない。					
到達目標②		色彩学を理解し、それを正確に表現する画力がある。	色彩学を理解し、それをおおまかに表現する画力がある。	色彩学をおおまかに理解し、色の違いを描き分ける画力がある。	色彩学を理解できず、色の違いを描き分ける画力がない。					
到達目標③		オリジナルのプロダクトデザインを考えて、正確な透視図法を使ってコンセプトスケッチを描くことができる。	オリジナルのプロダクトデザインを考えて、だいたい正確な透視図法を使ってコンセプトスケッチを描くことができる。	オリジナルのプロダクトデザインを考えて、透視図法を使ったようなコンセプトスケッチを描くことができる。	オリジナルのプロダクトデザインを考えることができず、透視図法を使った絵を描くことができない。					
学習・教育到達目標		(F)	JABEE基準1(2)		-					
達成度評価 (%)										
評価方法		中間試験	期末・学年末試験	小テスト	レポート	口頭発表	成果品	ポートフォリオ	その他	合計
指標と評価割合										
総合評価割合			40				60			100
知識の基本的な理解【知識・記憶、理解レベル】			○				○			/
思考・推論・創造への適用力【適用、分析レベル】										
汎用的技能【 】										
態度・志向性(人間力)【 】										
総合的な学習経験と創造的思考力【創成能力】			◎				◎			

関連科目，教科書および補助教材	
関連科目	
教科書	「高校美術Ⅰ」(日本文教出版株式会社)
補助教材等	プリント(演習問題等) ビデオ(プロダクトデザイナー)
学習上の留意点	
<p>本講義では毎回スケッチブックに作品を制作する。1回の講義で1枚から2枚の作品を仕上げることを目標としていくので、授業中に完成しない時は自学自習により完成させること。</p>	
担当教員からのメッセージ	
<p>日常的に見慣れたものでも、あらためてよく観察し、自分の感性というフィルターを通して表現すると、それまでには気が付かなかった新しい世界を創造できたりするものである。本講義では「描く」「表現する」「鑑賞する」といった学習を通して、自分の感性を磨き、そしてそれを表現する力を身に付けるということを目指とする。</p>	

授 業 の 明 細			
回	授業内容	到達目標	自学自習の内容 (予習・復習)
1	導入 授業の目的・意義 鉛筆の使い方 簡単なドローイング	1年間の授業の概要について理解する。 美術ならではの鉛筆の使い方、スケッチブック や画用紙の使い方を身につける。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
2	素描Ⅰ 形の捉え方のトレーニング	デッサンの模写を通して、鉛筆の使い方を身に つけるとともに画力の向上を目指す。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
3	素描Ⅱ 身近なもののデッサン (1)	身近なもの(靴)のデッサンを通して、目に見 えるものを正確に描き写す力の向上を目指す。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。全体 の形を描くところまで
4	素描Ⅲ 身近なもののデッサン (2)	身近なもの(靴)のデッサンに陰影を描くこと で、目に見えるものを立体的に描き写す力の向 上を目指す。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
5	色彩学Ⅰ 鉛筆や色鉛筆によるグラ デーション(明度、彩度)	8～10段階のグラデーションを描くことで、 より細かな鉛筆の使い方を身につけるととも に、細かな色の差を見分ける眼の力を養う。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
6	色彩学Ⅱ 色鉛筆によるグラデー ション(色相)	12段階のグラデーションを色鉛筆で描くこと で、より細かな色鉛筆の使い方を身につけると ともに、細かな色の差を見分ける眼の力を養 う。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
7	色彩学Ⅲ 4純色によるグラデー ション	49段階のグラデーションを色鉛筆で描くこと で、より細かな色鉛筆の使い方を身につけると ともに、細かな色の差を見分ける眼の力を養 う。	前回の授業中にできな かった課題を仕上げ て、スケッチブックの 提出に備える。
8	前半の授業のまとめ 実技作品提出①	素描、色彩学の要点をあらためて復習すると ともに、説明不足な点を補足説明。前半の課題に ついてのより深い理解を目指す。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
9	一点透視図法の基礎立体	基本的な一点透視図法の図形を描くことで、一 点透視図法の基本的な理論を理解するととも に、その描き方を身につける。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
10	二点透視図法の基礎立体	基本的な二点透視図法の図形を描くことで、二 点透視図法の基本的な理論を理解するととも に、その描き方を身につける。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
11	身近なものを二点透視図法で描く	身近な工業製品を二点透視図法で描くことで、 二点透視図法の絵画への応用を理解するととも に、コンセプトスケッチの基礎を身につける。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
12	プロダクトデザインⅠ アイデアデッサン	身近な工業製品を自らのアイデアでデザインす ることを通じて、デザインの重要性や楽しさを 理解する。	授業中にできなかった 課題を仕上げる。
13	プロダクトデザインⅡ コンセプトスケッチ(下描き)	自らがデザインした工業製品を二点透視図法で描 くことで、二点透視図法の絵画への応用を理解す るとともに、コンセプトスケッチの基礎を身に つける。	授業中にできなかった 課題を下描きのところ まで仕上げる。
14	プロダクトデザインⅢ コンセプトスケッチ(着色) 実技作品提出②	自らがデザインした工業製品を二点透視図法で描 き、色鉛筆で着色することで二点透視図法の絵画 への応用と、コンセプトスケッチの意味を理解す る。	前回の授業中にできな かった課題を仕上げ て、スケッチブックの 提出と期末試験に備え
期 末 試 験			
15	答案返却・解答解説、全体の学習事 項のまとめ、授業アンケートの実施	試験問題の解説を通じて、間違った箇所を理解 できるようになる。	
総 授 業 時 間 数			30 時間